

令和5年10月13日



# 琴中だより

(第24号)

倉敷市立琴浦中学校

## 職場体験を成功させるために！ ～10月10日に2年生でマナー講座～

マナー講座の様子

講師の

玉野商工高等学校

安達 暁俊 先生

【会釈15度、敬礼30度】

(琴中出身です！)

職場体験を行う目的 ①社会人としてのマナーを学ぶこと。

②社会と勉強がどのようにつながっているのかを知ること。

安達先生がお勤めになっている玉野商工高校でも「高校生インターンシップ」という、実際の職場に向いて学習する活動を長年続けているそうです。その中でこんなことがあったそうです。

① ある保育園の先生が、インターンシップでの高校生の頑張りをねぎらおうと、仕事終わりにケーキをふるまってくださった。高校生は喜んでおいしくいただいた。ところが、自分たちの食べた皿やカップをそのままにして帰ってしまった。翌日、園長先生から「皆さんはお客様ではない。働く者として来ているわけだから、せめて自分のものは片づけて帰ることのできる人でなくてはならない。」と諭された。

② 「その商品を並べておいて。」と指示されたが、どのように並べたらいいかわからない。「まあ、こんな感じかな。」と適当に並べ終えて、その場にとどまっていると、担当の方から3つのことを指摘された。

- ・作業が終わったのになぜ報告に来ないのか。(「しなければならぬことはまだまだあるんだよ。」)
- ・自分たちがまだその場にいることをなぜ連絡しないのか。(「なにか困ったことが起こっているのではないかと心配するでしょ。」)
- ・正しい並べ方がわからないのに、なぜ相談しないのか。(「間違った並べ方をするのに10分。間違っただけで並べたものを回収するのに10分。正しく並べ直すのに10分。結局、1回で正しく並べた場合の3倍の時間を費やすことになるんだよ。」)

こんな具体的なお話を交えながら、「母校の後輩が職場体験を成功させられるように」という熱い思いのあふれる安達先生のお話でした。

余裕のある事業所が、皆さんを受け入れてくださるわけではありません。忙しいのだけれども、それでも「中学生が自分の将来を考える助けになれば。」と考えて、承知してくださっています。そんな事業所の方々の思いを大切にして、意義ある活動にしてほしいと思います。

## 地域とともにある学校でありたい

地域の方々からこんなご相談を受けました。

- 中学生を送迎する車で、店舗の駐車場がごった返す。
- 迎えの車を待っている中学生が店舗内外で騒ぐ。
- そこに自転車通学生や徒歩通学生も一緒に加わり、さらに集団が大きくなる。

職場体験学習をはじめ、中学生のために、という思いをもってくださっている地域の方々、残念な思いをさせてはいけません。地域とともにある学校でありたいです。ご協力ください。